

さくら歩楽の会

古都 鎌倉を巡る ③

清風の東慶寺・

浄智寺 花の海蔵寺



尼寺の英勝寺

(スタート)

北鎌倉駅

平成27年 7月 22日

ひやくろち 白鷺池



● 円覚寺総門の前、JR横須賀線を挟んだ反対側の左右対称の池です。明治22年(1889)のJR横須賀線の開通によって、池の半分以上が破壊されてしまったが、円覚寺開山の無学祖元が鶴岡八幡宮の神霊に姿を変えた白鷺に導かれた場所が、この地だったという伝説が残されている。

東慶寺



● 西田幾多郎・鈴木大拙・岩波茂雄・和辻哲郎・高見順ら、多くの作家や学者の眠る寺として知られる。
● また、“縁切り寺”“駆け込み寺”で広く知られる。かつては、尼寺として栄え、三年修行すれば離縁できる「縁

きり切寺法」で多くの女性を救った。明治4年(1871)に廃止されるまで、約六百年にわたり受け継がれた。明治36年(1903)には尼寺から臨済宗円覚寺派の寺となった。
● 開山の寛山尼は、八代執権北条時宗の妻。御醍醐天皇の皇女だ



った五世用堂尼以来栄え、高い寺格を誇った。二十世天秀尼は豊臣秀頼の娘で、千姫の養女でもあったため江戸時代には徳川家の厚い庇護を受けた。豊富な花暦でも知られ四季折々に楽しめる。

しよつ ちし 浄智寺



● 総門近くの小さな石橋のたもとには、五山を示す石塔があり、その横には、鎌倉十井のひとつ「甘露ノ井」が残っている。
● 鬱蒼とした杉木立の中、石段を登ると、写真のような、二階に花頭窓のある鐘楼門に迎えられ

る。本堂・曇華殿に安置されているのはそれぞれ、過去、現在、未来を意味する、阿弥陀、釈迦、菩薩の木造三世仏坐像(室町時代)です。県の重文に指定されている。

● 創建は弘安4年(1281)で、五代執権北条時頼の三男宗政を弔う為、夫人と息子の師時が行った。鎌倉五山第四位の禅刹。当初の伽藍には方丈、書院、法堂など主要な建物や多くの塔頭があった。江戸期になると、寺院の多くが勢力を失い、伽藍も小規模になっ



た。関東大震災(大正13年)では、ほとんどが倒壊したが、徐々に再建された。昔ながらの広大な寺域は今も残り、国の史跡として保護されている。●境内には鎌倉一のコウヤマキや市指定天然記念物のビャクシンがある。大きな布袋様も立派に祀られている。

長寿寺



●足利尊氏の屋敷跡に、元享3年(1323)から建武3年(1336)の間に建てられたという。往時は七堂伽藍の大寺だった。
●境内は春と秋、季節限定で公開されており、本堂内には、足利尊氏像がまつられている。境内の奥のやぐらには、尊氏の遺髪を埋めたと伝えられる変形の五輪塔がある。

かめがやつきりとおし 亀ヶ谷坂切通し



● 鎌倉七口の切通しの一つです。坂道は峠にかかると、向こう側は急勾配となる。治承4年(1180)10月6日、源頼朝が安房から大軍を引き連れ「鎌倉入り」したが、北から鎌倉へ入る道はここだけであった。頼朝はこの道を通って鎌倉へ入った。

薬王寺

● 徳川三代将軍家光の弟、駿河大納言忠長が高崎で自刃。妻の松孝院殿は、この寺に供養塔を建立し、永代追善菩提のために多額の金子と広い土地を寄進した。三千坪の境内には五重塔や諸堂があったが、享保5年(1720)の火災で焼失した。江戸時代は、徳川家と縁が深く、寺紋にも三葉葵が用いられ、町人の埋葬は許されない格式の高い寺であった。明治になり廃仏毀釈のため荒廃。無住が50年続いた。大正3年復興され、本堂には法衣袈裟をまとった日蓮聖人像がある。

岩船地藏堂



● 頼朝の娘・大姫の守本尊を祀っているお堂です。守本尊は石造地藏尊で、船形光背をもつもので、これが岩船地藏の名の由来となっている。元禄3年(1691)に堂が建て替えられたときに木造地藏尊が安置された。石造地藏尊は秘仏となっている

海蔵寺



● 仏殿に安置されている「薬師如来像」です。別名啼薬師、児護薬師とも呼ばれている。●ある時、寺の裏から毎夜聞こえる悲しげな赤ん坊の泣き声を、源翁禅師がたどっていくと、金色の光と甘い香りが漂う古い墓があった。経を読みながら掘ってみると、中から薬師様のお顔

が現れ、あらたに作った薬師像の胎内にそれを納めたという(胎内の像を拝観できるのは六十一年ごととされています)

●創建は、応永元年(1394)開山は、「殺生石伝説」にまつわる心昭空外(源翁禅師・別紙にて解説)扇ガ谷の谷戸のつきあたりにある深い緑に囲まれた古刹。

● 秋に参道を彩るハギが有名で、他にも境内の至るところ、ユキヤナギ、カイドウ、ツツジ、ヤマブキ、ハナショウブ、シオン、モミジ、スイセンなど季節の草花やリンドウなどの山野草が咲く、鎌倉有数



の花の寺である。

● 写真は門前の、鎌倉十井のひとつ「底脱ノ井」です。御家人安達泰盛の娘が水を汲んで桶の底が抜け、「千代能がいただく桶の底抜けて水たまらねば月もやどらじ」と詠んだ歌によるといわれている。

十六ノ井



● 鎌倉時代の貴重な遺跡である「十六ノ井」。縦4つ、横4つ規則正しく並んでいて、直径70㌢位、深さ4~50㌢位の穴に枯れることがない清冽な水が湧いている。その昔、弘法大師が作ったとの伝説もあります。

景清土牢跡



● 平家の残党・平景清が死んだと伝わる土牢跡です。景清の一族はみな、頼朝暗殺に執念を燃やし、父は六条河原で晒首、兄・忠光は鎌倉で捕縛され六浦海岸(横浜)で晒首。景清は建久6年(1195)奈良東大寺で頼朝を暗殺しようとして捕らえられたという。

阿仏尼供養塔

● 鎌倉中期の歌人。藤原為家の側室で、和歌をよくし、「続古今和歌集」以下の勅撰集に51首収蔵されている。播磨国清川荘をめぐる正妻の子為氏と争う、息子の為相の正当性を訴えるため京より鎌倉に下向した。この時の二旅行記・滞在記である「十六夜日記」を著した。

英勝寺



● 鎌倉唯一の現存する尼寺です。開基である英勝院尼は、太田道灌から数えて四代の孫康賢の娘。お勝の方と呼ばれ、徳川家康に仕えた。水戸家初代徳川頼房の養母をつとめ、家康の死後出家し、英勝院と号した。

先「太田道灌」の土地をうけ、英勝寺を建立。水戸家初代の息女・玉峯清因を開山に迎えた。英勝院没後は、水戸光圀によって祠堂(建重文)が建てられ、完成の折には光圀も来訪している。以後水戸家ゆかりの寺として代々水戸家の姫君が住職をつとめた。

● 昔は水戸御殿と呼ばれたほど格式の高い寺で、三葉葵の紋を掲げた総門(県重文)の両側には黄土色の築地塀が続く。総門が開くのは英勝院の命日のみで、ふだんは通用門から境内に入る。

● 境内は四季折々の花に彩られ、ウメ・マンサク・ヤマブキや、市天然記念物のツバキの「佐助」が見事である。